（様式１）【ホームページ掲載用】

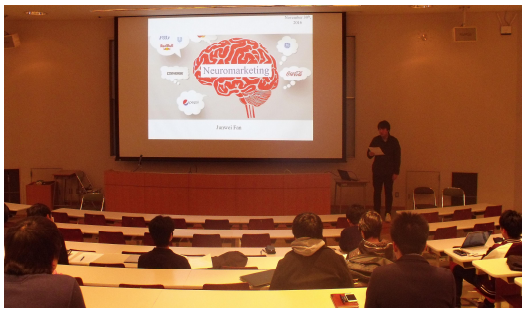
研究課題（テーマ）	学生間での持続的な指導を伴う技術英会話クラスの充実

研　究　者	所　属　学　科　等	職	氏　　名
代表者	情報システム工学科	教授	唐山　英明
	情報システム工学科	教授	鳥山　朋二

研究結果の概要

本プログラムでは、情報システム工学科／専攻の学部生と大学院生を対象として、英会話に重点を置いて教育を行いました（期間 2016 年 8 月～2016 年 12 月）。学生間で教えあうことや、英語への壁を取り払うこと、また国際会議への参加を促すことを目的とし、ネイティブスピーカ 1 名を含む外部講師 3 名を雇用しました。また、15 名の学生が参加しました。

基本的な英会話、英作文、リーディング、2 回の英語プレゼンテーションを含む充実した少人数指導が行われました。英語プレゼンテーションでは国際会議での発表を想定しながら、工学技術など専門性のある話題として各学生自身の研究テーマを題材に選んで発表スライドを作成し、聴衆に対してプレゼンテーションを行いました。



多くの参加学生はネイティブスピーカの講師とも時間外に仲良く話し合うなどで交流を深めたり、また、英語での簡単な雑談も臆することなくできるようになったことから、当初の目的であった英語への壁を取り払うことについては、概ね達成できたと考えられます。

また、英語プレゼンテーションにおいては、ジェスチャーや視線などの分かりやすい技術英語発表に関する知識を身に付けることができました。参加学生の一部は、本プログラム後に英語論文の執筆にも挑戦しており、以上から一定の成果が得られたと考えられます。国際会議への投稿を促し、さらなる成果創出へと導く予定です。

学生間での教え合いについては、本プログラム内で実際にそのような場面が何度も見られました。講師からは指導的立場になることができる学生もいるとの評価がありました。

今後の展開

一定の成果を創出できたこともあり、今後、新教育プログラムでの継続はしませんが、本取り組みは極めて重要と考えられますため、他の予算獲得等により継続して実施することを検討していきます。その際、学内の各所と連携を図り、充実した英会話プログラムを構築することが重要と考えられます。教員も英語教育のノウハウを修得することができ、今後の質の高い教育につながるプログラムに発展させたい考えです。